



視覚障害者の疑似体験で点字を作成するイベント参加者(右、神戸市中央区)＝神戸アイフレンド提供

神戸アイフレンド

(神戸市須磨区)

視覚に障害がある子どもたちの学習支援を行うとともに、その家族の相談に乗って、安心して生活できる手伝いをするのが活動の柱だ。神戸市立盲学校の元教諭で、理事長を務める浜田節子さん(65)をはじめ、これまで個々に取り組んでいた仲間が集まり、4年前にたちあげた。

JR神戸駅前のビル内に

サポート

視覚障害児と家族支援

ある県立神戸生活創造センターで借りるブースが拠点。週2回を活動日として、金曜日打ち合わせ、別の曜日に支援を行う。

スする。「見え方は一人ひとりで異なるので、大事な要素」と強調する。様々な不安を抱える家族の相談に乗り、解決の糸口を探す。同じ経験を持つ人たちで意見交換できる「もやい糸の会」も作り、日頃の思いを打ち明けながら、つながれる場も設けた。

ブースや訪問する自宅で、子どもたちの基礎学力の指導やパソコンのキーボード操作の習熟に努める。学習時の照明の当て方や、板書の見方など、勉強しやすい環境づくりもアドバイス

活動を継続させるため、多くの人材が必要という。

開設：2013年12月
運営：メンバーは13人。神戸市立盲学校に勤務するか、勤務していた教諭、視能訓練士、視覚障害に関心のある人らが参加。視覚障害への理解を広げる活動にも取り組む。
問い合わせ：電話(090・5040・8151)。

浜田さんは「少しでも関心があり、理解してもらえ人であれば、気軽に連絡してほしい」と話している。

勝山市観光ガイドボランティア代表 水上芳捷さん(74)
「仲間が一番の勉強家。研さんを続ける姿に頭が下がります。歴史講座や講演には必ず参加し、学んだこ

仲間から

とをガイドに取り入れる。食欲な姿勢を見習いたいと思っています。年1回のガイドの学習旅行の段取りまで引き受けて、面倒見が良く、仲間から頼りにされている存在です」

お気に入り

わずかな暇さえも菜園の土いじりに計170坪の畑で、できれいに畝を整はピーマン、ナス、枝豆づくりを堪能の郷土野菜「勝山